

かわべ

発行 河辺村公民館
編集 館報編集委員会
編集 河辺 17番
印刷 佐川印刷 KK
吉田町北小路 2-0600

河辺村人口動態

(S.52.5月1日現)

世帯数	620
人口	2,309
男子	1,159
女子	1,150

(S.50.10国調)

世帯数	666
人口	2,368

(S.45.10国調)

世帯数	718
人口	2,810

昭和五十二年年度の当初予算

「一般会計七億一千百万円 特別会計二億円」

五十二年年度の一般会計当初予算は七億一千百万円で、前年度に比べ二・七%の増となっています。これは土木事業及び農林業振興事業の伸びによるものです。

(歳入)
村税の全体を占める割合は、わずかに二・五%であり、地方交付税は四一・九%。国庫の補助三四・二%となっています。

(歳出)
道路や農林業振興生活基盤整備を軸として、次に列記する諸事業等を行います。

○林道・川崎稲谷線 七五、〇〇〇千円
○林道・百合谷線外一線 三〇、〇〇〇千円

○農道・稲谷線・交換分合外七線 一八、〇〇〇千円
○林業構造改善事業(含林道) 六七、八八〇千円
○出合簡易水道外一 三、七〇〇千円
○コミュニティ施設整備事業 六、九一八千円

このほか、小規模な事業を含め約二億円の事業が実施される予定です。

~公民館活動計画決まる~

NHK まかあぐさの勉強室

あらたに 幼児家庭教育講座 を開設

今年度公民館では、生涯教育の観点から、各種学習の場と機会をつくることと共に、公民館本館の施設不足を補充するため、末端の集会所へ出向き、心のかよひ合う郷土づくりをめざして、次のような活動をすすめていくことになりました。

皆さんの積極的な参加をおねがいたします。

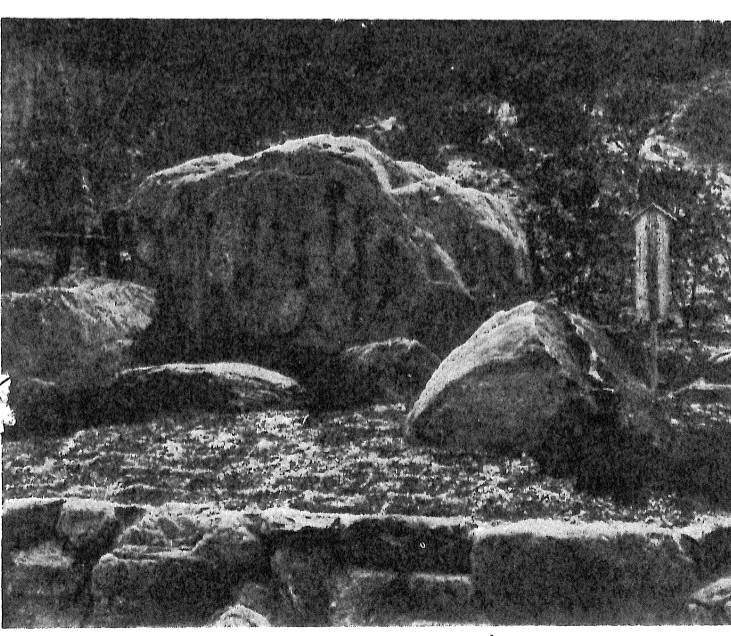
一、学習活動の展開
①三才児をもつ両親を対象とした家庭通信教育を実施
②四才・五才児をもつ母親を対象とした幼児家庭教育講座

- 象にした幼児家庭教育講座を年間七回開設
- ①青年教室を年間六回開設
 - ②婦人学級を年間六回開設
 - ③地区の集会所へ出かけて三世交代交流会を開催
- 二、文化活動の振興
- ①指定文化財の保護と活用をはかる(防護柵の設置)
 - ②民俗資料の調査・収集
 - ③郷土芸能の保存として、扇子おどりの音頭統一を行ない伝承をはかる。
 - ④四・五才児を対象にした母子と子の移動文庫を巡回
 - ⑤小学生を対象にした児童移動文庫の巡回
 - ⑥館報を年間六回発行し、親しまれる紙面にする。
- 三、健康づくりの推進
- ①産業文化祭(第二回)の開催
 - ②親子レクリエーションのつとめ
- い(五月五日)
①ソフトボール大会 (七月十七日)
②バレーボール大会 (八月二十一日)
③エ十三回村民運動会 (十月十日)
④卓球大会(十二月四日)
⑤夜間照明施設の活用
⑥健康の鍵運動を奨励
- 四、生活運動の推進
- ①あいさつ運動の奨励
 - ②料理講習などによって食生活の改善をはかる。
 - ③香典返し、見舞返しなどの虚礼廃止運動の徹底
 - ④菊づくり講習などにより花いっぱい運動を奨励
- 五、同和教育の推進
- ①村内一斉清掃の実施
- 六、各種団体の育成

特別会計

水道会計	41,113千円
診療所会計	67,477千円
国民健康保険会計	92,313千円

2千万 4千万 6千万 8千万 1億



流麗な直筆もあざやかに

五月の抜けるような青空に、子供の健やかな成長を願って泳ぐ、いなほり。一説には、神功皇后が三韓征伐の時、持ち帰られたといわれる、仁徳天皇の時代からともいわれる。端午の節句に邪気を払うために供えられたちまき、古代にはカシワの葉は、食物として使用されていた。その古い生活をそのまま表現したものが、カシワ餅といえ、節句餅として作られる。

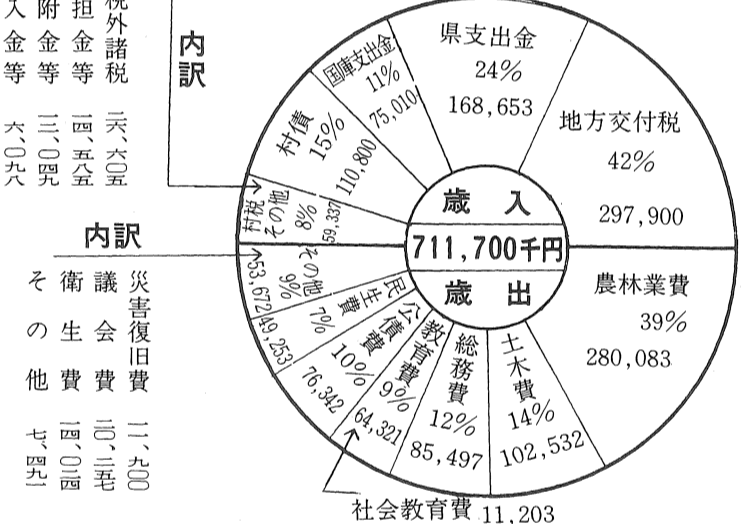
活動的に過した一日が終って、ほっと一息、少し疲れを感じた時は、つい甘い物に手が出る。それは、自然の摂理ともいえる。

(こ)で、一寸砂糖について考えてみよう。砂糖は、わずかで吸収されてエネルギーとなり、疲労を回復させるという素晴らしい働きをする。又、嫌な事があった時、悲しい思いをした日の夕方、ひとり、やるせない気持ちで、ボンボンと口の中へほうり込むと、甘さが口の中へ拡がるにつれて、心のしりが、スーッと消えたり……心を休める働きもする。砂糖には、甘味をつける働きも、味をまろやかにする、酸味を柔らげる等の料理の隠し味的使用の仕方もある。サラダ、カレー等に隠し味として、砂糖を一寸入れると、味が引き立つ。料理の味つけ、ことに煮物の味つけは、砂糖塩醤油その他の調味料のサシセソの順に入れるのが普通。なぜ、砂糖から入れ、という、砂糖の「ふくらみ」させる働きを生かし、夫々の材料の持ち味を引き出すと共に、味をまろやかに仕上げるためだ。

先に、塩から入れると、塩の性質がうち出され、材料がしまった固い物になってしまう。一度しまった材料は、なかく柔らかくならないし、砂糖のまろやかさも、つきにくくなる。

砂糖の白さは、砂糖本来の純粋な色で、天然の植物(さとうきびてんさい)から純粋な成分だけを取出した自然食品。白くても、しらない砂糖のおはなし。(A)

一般会計構成表



七五三満先生を讃え 念願の歌碑母校に建つ

河辺村唯一の正統派歌人として、又、アララギ系「霸王樹」の同人の内でも、純粋な歌風と写実の妙をもつて大いに喝采された七五三満先生が、河辺中学校長在職のまま五十五才の生涯をこぼれられたのが、ひびきの声につつまれ、これを憂える教子の方達を中心に、歌碑建立の声が起り、昨年委員会が結成され、内外有志の協賛により去る五月三日、盛大な除幕式が行われました。

石碑は石鏡の流れに磨かれた青石、終戦の翌日、心の痛手を詠んだ作品で「山かわのひかり」に似ぬ、の碑文が、裏山に植込まれたつじの園に映え、妙を得た配石とともに見事な調和を保って、旧大正門前に後進の育み待つかのように異彩を放っています。

た昭和三十四年秋の夕暮れでした。このような道に縁遠いわが村では、次第にその記憶も遠のき、珠玉の作も陽の目を見ず今日に至りました。

これを憂える教子の方達を中心に、歌碑建立の声が起り、昨年委員会が結成され、内外有志の協賛により去る五月三日、盛大な除幕式が行われました。

石碑は石鏡の流れに磨かれた青石、終戦の翌日、心の痛手を詠んだ作品で「山かわのひかり」に似ぬ、の碑文が、裏山に植込まれたつじの園に映え、妙を得た配石とともに見事な調和を保って、旧大正門前に後進の育み待つかのように異彩を放っています。

ふるさとへの 便り

松山市 二宮 勝盛

なつかしく生れ育った河辺を、名な出石寺に神山詣と云う和尚なれても十年近くもなる。最後さんが居た。その和尚さんに一筆の心や愛情は不変であるという思いもよらず松山に住みついてしまった。けれども、第一の故郷河辺には先祖の骨を埋めた墓があり、少しばかりの山林がある。毎年少しは故郷へ帰っている。ふるさと、四回は故郷へ帰っている。ふるさとで久しぶりに出会う方々の人情の美しさは筆にも言葉にも、又金でも得られない尊貴、美しさがいっぱいある。これは同じ泉の水を呑み、同じ境涯に育ち、同じ学校に通う等、永遠に変わらぬ人情味があつて居るからである。今から三十年前、あの有る文字の意味は、

やねばし

五月の抜けるような青空に、子供の健やかな成長を願って泳ぐ、いなほり。一説には、神功皇后が三韓征伐の時、持ち帰られたといわれる、仁徳天皇の時代からともいわれる。端午の節句に邪気を払うために供えられたちまき、古代にはカシワの葉は、食物として使用されていた。その古い生活をそのまま表現したものが、カシワ餅といえ、節句餅として作られる。

